

第2回水稲病害虫発生予察結果

◎4月下旬～5月上旬植えの早生品種《コシヒカリ・ひとめぼれ等》

【生育状況及び病害虫発生状況】

コシヒカリなどの早生品種では、生育の目安となる1株あたりの茎数は多い田んぼでは26本となっており少ない田んぼで13本程度となっておりました。1株あたりの茎数が20本確保出来ていない田んぼは昼間のうちは水を止めて、水温の確保に努めてください。また、病害虫の発生は確認されませんでした。

【中干しについて】

中干しの目的は、無効分けつ(穂が実らない無駄な分けつ)を抑え生育を適正に保つ効果や、土壌中に酸素を供給し、根を健全に保つことで稲全体の生育を保つ効果があります。

中干しの開始は、1株あたりの茎数が20本確保できた時期が目安となります。中干しの期間は、1週間ほどを目安とし、長雨により地面のひびが割れないようであれば2週間程を目安に行ってください。また、晴天が続き、地面のひび割れが確認できれば1週間より前に中干しを終了していただいても問題ありません。中干しの目安は右の写真を参考にして下さい。



中干の様子

【けい酸加里(中肥)の施用】

けい酸加里は、稲の茎を硬くし倒伏しにくくする効果や、根の張りをよくする効果があります。中干し期間までに施用するようにしましょう。施用量は10a当たり20kgです。



けい酸加里

【雑草について】

コシヒカリなどの早生品種では、ホタルイ、クログワイなどの水田雑草の発生が確認されました。雑草は大きくなると薬剤での防除が困難となりますので早めの除草剤散布を行ってください。

除草剤の中期剤として「バサグラン粒剤」があります。バサグラン粒剤を使用するときは、田んぼを落水状態(足跡に水が少し残る程度)にして散布を行ってください。また、散布直後に雨が降ると効果が低下してしまいますので、散布後3日観は雨が降らない時を狙って散布してください。

薬剤名	使用時期	使用方法	使用量	使用回数
バサグラン粒剤	移植後15～55日 (ただし収穫60日前まで)	落水散布または ごく浅く湛水して散布	3～4kg/10a	1回

◎5月中旬～5月下旬田植えの晩生品種《きぬむすめ、あいちのかおり SBL》

【生育状況】

5月中下旬に田植えを行った中生・晩生品種の水田では、順調に分けつ数が増えてきております。分けつ数を確保するために昼間は水を止め水温を確保するように努めてください。

今回の調査では病害虫の発生はありませんでした。また、雑草の発生がやや確認されましたので、大きくなる前に除草剤の散布を行ってください。